



© Masashige Ogata

ヴォルフガング・ ダヴィッド

1971年、ウィーン近郊ザンクト・ペルテン生まれ。8歳でウィーン国立音楽大学へ入学し、ウィーン・フィルコンサートマスターのR.キュッヒル氏に師事。ケルン音楽大学でI.オジム氏に、ロンドンのギルドホール音楽院でJ.ニーマン氏に学ぶ。多くのコンクールで入賞。ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団、ウィーン放送交響楽団、ヨハネスブルク・フィルハーモニー管弦楽団、ベルン交響楽団、などのオーケストラと共演。ウィーン・コンツェルトハウス、ムジークフェラインザール、カーネギー・ホール、ウィグモア・ホールなど世界の著名なホールで演奏。特筆すべきはNY国連アッセンブリー・ホールでのコフィー・アナン国連事務総長臨席のもとでの演奏、バンコクでのタイ女王臨席での演奏である。ワシントン・ポスト紙は、「最高度の音楽が降り注ぐ」と評し、「ストラド」誌は、彼の演奏の「情感の豊かさは人が望み得る最上のもの」と絶賛している。使用楽器：Carlo Bergonzi 1724年（オーストリア国立銀行貸与）



大塚野乃子

東邦音楽大学附属東邦中学校、高等学校を経て同音楽大学、ウィーン・私立プライナー音楽院ヴァイオリン科卒業。これまでにヴァイオリンを西島英子、白井英治、白井篤、ルネ・シュタール、ボヤン・ネデリコヴィッチ、ヴォルフガング・ダヴィッドの各氏に、室内楽をシュテファン・メラー氏に師事。2015年秋に帰国し現在は室内楽、オーケストラで演奏を行う他 後進の指導を行う。アライ文化学園ではドイツ語講師を務める。第57回北九州芸術祭クラシックコンクール 室内楽部門 奨励賞(2019)



大池郁乃

東京都出身。5歳よりピアノを10歳よりヴァイオリンを始める。東邦音楽大学を首席で卒業後、ヴィオラに転向する。洗足学園音楽大学大学院修了。大学在学中にベートーヴェンのヴァイオリン協奏曲を大学オーケストラと共演。『若きヴィオリストたちの饗宴』に出演するほか、宮崎国際音楽祭、飛騨高山国際音楽祭に参加。第10回日本演奏家コンクール最高位受賞。これまでにヴァイオリンを平澤仁、ルネ・シュタールの各氏に、ヴィオラと室内楽を大久保淑人、岡田伸夫、大野かおるの各氏に師事。



三森 未来子

東京芸術大学附属音楽高等学校、同大学を経て、同大学院を修了。在学中、芸大管弦楽研究部と共演。ローザンヌ夏期音楽アカデミー、沖縄ムーンビーチ・ミュージックキャンプ、ロームミュージックファンデーション「スイス音楽セミナー」、ザルツブルク、リュベック、草津などの夏期音楽アカデミー(D・ゲリンガス、M・オスターターク、W・ベッチャー、C・ヘンケルの各氏)にて研鑽を積む。これまでに松波恵子、三木敬之、林峰男、堀了介、秋津智承、鈴木秀美の各氏に師事。1988年シメーヌ・ストリング・カルテットを結成し、第1回淡路島国際室内楽コンクールにて第1位。併せて兵庫県知事賞を受賞。以来、「東京の夏」音楽祭、NHK-FMをはじめ、カルテットのメンバーとして活躍。1992年より定期的にソロリサイタルを開催、現在に至る。2006年よりパッサハ無伴奏リサイタルを始め、2010年浜離宮朝日ホールでの演奏も好評を博す。現在は、スーパー・チェロ・アンサンブル・トウキョウメンバー。在京オーケストラ、室内楽と活動しながら、東京音楽大学非常勤講師として後進の指導にあたっている。



米根 弥恵

東邦音楽大学卒業後、伴奏・室内楽を中心に活動。ヴァイオリンとのデュオやアンサンブルでのリサイタル、木管楽器や歌とのリサイタルを国内外で行う他、コンクール・オーディション等のパートナーピアニストも多数務める。これまでにピアノを岩沢延枝、吉武雅子、小林律子の各氏に、室内楽を川崎ヴァイセシボルン操、富田牧子、白井篤の各氏に師事。日本演奏連盟会員。